広報にいつ

発行所　新津市役所　電話 代表550番
発行人　窪田繁雄
印刷所　東洋館印刷所
毎月一回　発行

人口動態
（4月1日現在）

人口	57,440
世帯主	10,443

（3月中）

転入	145	転出	114
出生	105	死亡	38
婚姻	51	離婚	5

昭和三十三年度予算案は三月十二日市議会に上提され、次のような市長の編成方針の説明があり、同月十七日各常任委員会に付託、連日、慎重審査の結果二十九日の本会議に報告され、同日原案どおり可決されました。予算総額は、一般会計（追加も含む）三億一千四百五十万五千二百五十円、特別会計一億六千七十一万二千九百十円、合計四億七千五百二十一万八千百六十円であります。

新年度予算成立

窪田市長の予算説明

総額　四億七千五百万円

事業費増額に努力

赤字返しつゝ市勢伸展

窪田市長

三十二年度は旧新関村の皆様をお迎えし、財政再建第二年目でありましたが議員各位を始め、市民の皆様のご援助ご協力により、新市建設計画に基く小中学校舎の整備、道路橋梁の改良、消防施設の整備、住宅建設、高校の整備などの諸事業が着々として実施されつつありますし、上水道拡張事業も配水幹線については、新関地区の一部を残すほか、大方完成するに至りましたことは皆様とともにまことにご同慶に存ずる次第であります。

基本方針

【さて新年度予算編成の基本方針について申上げますと、

第一、事務能率の向上と費用の効率的使用に、できるだけの創意工夫を加えることによって消費的経費の圧縮に努めたこと。

第二、物心両面とも一般市民のサービスを低下せしめないよう努めたこと。

第三、既定計画に基づく赤字借千二百五十七万余円を償還しつつ市勢伸展の原動力となる投資的事業費をできるだけ多額に計上することに特に努力を払ったことであります。

市民税率昨年通り

給与所得は七・三%増

一般会計歳入

次に歳入から申上げます、

市税　では自転車、荷車税の廃止、オートバイ税の県税から市税への移譲、タバコ消費税の二%増率、地方交付税繰入率の一、五%増率などの改正が目下国会で審議されておりますが、これらについていは、国会通過後補正を行うこととし、自治庁の方針に基きすべて現行制度によって実収見込額を計上いたしました。

市民税　では、ご承知のように三十二年度に標準税率が設定せられたことに伴い減税いたしました税率を、そのまま採用いたしましたが、給与所得などの延びで個人の所得割が三十二年度予算に比べ七、三%、税額で三百二十万円の増収が見込まれた次第であります。

固定資産税　では、県の指示価格の改訂により田、畑は三、五%、宅地は五、九%の増率、家屋は三、七%の減率となりました。

財産収入　では、土地売払代につきましては、本年度決算見込による残金を勘案しその残金をできるだけ有効に新年度投資的事業の財源に振向けるために、三十二年度で売却を計画いたしました旧石川島跡地の処分代金中、一千二百万円を一応新年度の収入とすることといたしました。

使用料、手数料　では公舎使用料が一般の市価並びに統制価格に比較し、低廉であるのでこれを引上げ維持修繕費に振向けることといたしました。

保育所、保育料　では金津保育所の保育料と三十二年度では一人月六百五十円でありましたものを七百円に増額し、増差額は給食費で還元することといたしましたし、林照寺保育所の保育料を新たに計上いたしました。

国庫支出金、県支出金及び市債収入　では、各般の状勢判断の下に妥当額を計上したつもりでありますが、しかし、この目標額確保には今後容易ならぬ努力を必要といたしますので、各位からも十分のご協力を切望いたす次第であります。

雑収入　では、昭和三十一年度繰越事業の残金五百万円（追加を含む）を計上いたしましたが、これは、昭和三十一年度から昭和三十二年度へ繰越しいたしました事業費が年度末に精算されることとなりますので、その際生ずる決算残金を見込んで計上いたした次第であります。

以上の外は大体既定の方針で各科目とも収入確実予定のものを計上するようにいたしました。

選挙人名簿の一部を五泉市へ引継ぐ

四月一日付で旧新関村の一部が五泉市に編入されましたので、関係部分の選挙人名簿を五泉市に次のとおり引継ぎしました。

基本選挙人名簿
男　一〇〇人
女　一二五人
計　二二五人

農委選挙人名簿
男　八三人
女　一〇三人
計　一八六人

（選挙管理委員会）

都計　中野大久保線に800万円

道路や消防施設も充実

一般会計歳出

次に歳出予算について

議会費　では、事務能率を向上せしめ、議会活動の障害を除去するために六万円を計上して速記タイプ一台を購入することといたしました。

市役所費　では、市庁舎が狭隘でいろいろと不便、不都合がありますので、付近の売家を物色して買収することにいたしましたが、その所要経費三百万円を計上いたしました。

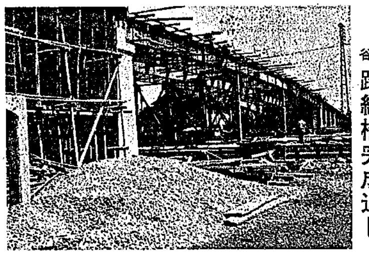
消防費　では、消防活動の機動性を発揮せしめるために四十一万円の予算をもって無線電信機一台を購入することとし、なお防火貯水槽一基の築造費三十五万円、可搬式二十八馬力の消防ポンプ一台の購入費三十六万余円を計上した外、大体前年同様の機材整備費を計上いたしました。

道路橋梁費　では、三十二年度から継続の大関線、産業道路の延長築造費四百五十一万余円を計上いたしました外、その他の新設改良費については、三十二年度を可成り上廻る一千五百八十七万余円を計上して小阿賀野川架橋、田家村中線その他の改良工事などを実施することにいたしております。

河川費　では、日宝町に排水ポンプを備え付けて降雨による悪水除去を図るためにその購入費二十万円を計上いたしました。

都市計画費　では、中野大久保線の築造費を県道、新津五泉線に接続するまでの工費として、八百万円を計上いたしております。

失業対策費　では、就労人員も三十二年の大体一割増を見込んで総額一千四百八十万余円を計上いたしました。



山谷　跨線橋完成近し

28年以来の跨線橋も架橋部分が五月末、取付道路その他が一カ月で六月末完成の見通しとなつた

農業文化センターを建設

揚水ポンプでドブを改善

小学校費　では、三十二年度からの継続事業であります小合東小学校舎の改築費五百四万円、阿賀小学校舎の改築費六百二十三万余円などを計上いたしました外、小合西小学校電話架設費三十五万余円を計上して各学校にすべて電話が架設されるようにいたしました。

中学校費　では、これまた三十二年度からの継続事業であります金津中学校舎の増築費七百六十七万余円などを計上いたしました。

幼稚園費　では、幼児教育の内容充実を図るために、臨時備品費十二万円を計上した外、地元から四十万円の寄付金を受けて、小合幼稚園を新設することとしてこれに要する費用百二十万余円を計上いたしました。

図書館費　では、図書購入費の増額をした外、利用者の便益を考慮して内部の改造費十万円を計上いたしました。

○ブロック一棟、木造十戸を建設○

住宅費　では、三十二年度に引続き第一種簡易耐火ブロック住宅一棟六世帯分及び第二種木造住宅十戸を建設することとして、その所要経費八百九十八万余円を計上した外、学校改築による不用材を活用して低家賃の庶民住宅を建設するため百二十万円を計上いたしました。

保健衛生費　では、市内の美化並びに予防衛生の重要性に鑑み、新年度はこの方面に特に力を致す考えのもとに経常経費に対しましても、そ族昆虫駆除用薬品費の増額夏季薬剤撒布用人夫賃金一人分の増額、市のゴミ収集要員の増員、結核予防費の増額などをいたしましたが、投資費の面においては、塵芥焼却場の建設費四百万円並びに山先地内に揚水ポンプを据付けて、市内のドブ堀を改善しようとする環境衛生施設費を七百万円に増額計上いたしました。

観光費　では、入湯税の増収と相まって秋葉山を中心とする観光施設の整備のために五十三万円の投資費を計上いたしました。

農業費　では、新年度より市の西部地区に実施されることになった営農改善を目的とする所謂、新農村建設の事業として農業文化センターの建設費六百万円などを計上いたしました。

産業育成資金　原資500万円に

社会教育費も増額

―投資的経費―

この外、投資的経費は一億八百八十五万九千余円となり、消費的経費との割合は、消費的経費一〇〇に対し投資的経費六一の割合となっております。只、この執行については、その財源の一部である国県補助金並びに、市債について大体その収入は確実とは考えられますが、しかし決定は、専ら今後の活動努力に俟たねばならぬものであり、また、現に承認を得ている財政再建計画の枠を超えておりまして、この点についても関係機関の了解承認を求めなければならぬことになっておりますので、その大よそ超過する額の事業経費に対しては形式上追加予算の形で編成することにした次第であります。

なお参考のために、財政再建の指定を受ける前の昭和三十年度以降の、国保、水道、公益質屋費を除いた所謂普通一般会計における消費的経費と投資的経費との状況は下表の通りとなっており、新年度の投資的経費に可成りの計上ができましたことは、皆様とともに私のよろこびとするところであり、今後この実現に努力して行きたいと存じております。

年度	実数（単位千円） 消費的経費	投資的経費	歩合（%） 消費的経費	投資的経費
30年度	165,798	81,033	67.2	32.8
31年度	148,815	130,707	53.2	46.8
32年度	183,266	144,151	56.0	44.0
33年度	183,350	129,181	58.7	41.2

―消費的経費―

この方面の経費は基本方針として既に申述べましたように、経費の効率的使用などによって、できるだけ経費を圧縮、膨脹くい止に努めましたが、しかし、一面行政の質を改善して市民サービスの向上となるものについては、財源の許す限り、適宜増額計上いたしております。そのうち主なるものの三、四について申上げますと、不況による中小企業者をできるだけご援助申上げるため、

産業育成資金　の原資を三十二年度より百三十万円増の五百万円以上といたしましたし、新農村建設のための費用として前述農業文化センター建設に要する経費ともで合計一千二十二万余円を計上いたしました。

生活保護費　は三十二年度の二回に亘る保護規準の改訂に伴い本年度現計予算に比し、約一割の増となっております。

社会教育費　は、この方面の活動の一層活発化を期待してその行事費などに若干の増加をするとともに、その使用方法について幾分の改善をいたしております。

○超勤手当は三%○

人件費　では政府で昇給予算を四、二%見込んでおりますが当市では三十二年度において整理を要する人員が計画上の員数に達しない現状と再建計画の変更を必要とする事情にあります点から一応二%の昇給を見込んで計上いたしましたが、今後財源状況などを勘案して追加したいと考えております。

超過勤務手当　については、金額国庫負担に属する衆議院議員選挙のために要するものの外、通じて給料の約三%の額を計上いたしました。

以上のような方針で編成いたしました新年度の一般会計予算の総額は、三億一千四百五十万五千二百五十円で三十二年度当初予算（同時議決の追加予算を含む）二億六千五百六十四万八千六百五十円に比べ四千八百八十五万六千六百円の増加となっております。

（以下二面上段へつづく）